

「そのうち、なんとかなるんじゃないの？」

テレビでこんなコマーシャルが流れているのをご覧になりましたか？

高レベル放射性廃棄物の処分主体「原子力発電環境整備機構」(NUMO)が、地層処分の概要編として流しているものです。NUMOのホームページでも見るができます。

トイレなきマンションと言われてきた原子力発電の使用済み燃料をどうするかは、いまだに何も解決されていません。保管場所をどうするかが今、福井県では大問題となっています。



もともと使用済み燃料を再処理工場で処理し、プルトニウムを取り出して再利用する計画でしたが、六ヶ所再処理工場の竣工は27回延期され、28回目も避けられない状況に近づいています。

NUMOは、再処理工場がうまく稼働した時に、処理後にできる高レベル放射性廃棄物ガラス固化体を地下深くに埋める処分場の立地場所を探して建設するのが役割ですが、再処理工場が動かずガラス固化体ができないので、地下処分できる物がない虚構の仕事をしているとも言えます。

立地場所の調査として、北海道寿都町と神恵内村、佐賀県玄海町で調査を行っていますが、特に寿都町では町民の意見が賛否に分かれ分断が進みました。

一橋大大学院の山下英俊准教授が寿都町全世帯1291戸に調査票を送って行った調査では、町内の人間関係について「悪い影響を与えた」「どちらかという悪い影響を与えた」と答えた人が計69%を占めました。

寿都町と神恵内村については、この後、第2段階の調査に進むかどうか知事の意見を求める手続きが予定されており、鈴木北海道知事は「現時点で反対」と表明していることから、これ以上の進行はないと予想されています。

また、玄海町は、国の適地マップで全域が「好ましくない」とされているにもかかわらず、原発があり原子力施設に反対の声が上がらないという理由で調査が進められているにすぎません。

NUMOが本気で高レベル放射性廃棄物の処分場を作ろうとするのであれば、建設段階に進んでいるスウェーデンなどに学び、徹底した情報公開で住民の信頼を得なければ進まないことは分かるはずなのに、分断を招き、非公開で全国の自治体への働きかけを続けています。

私は、「NUMOが本気で高レベル放射性廃棄物の処分場を作ろうとしていない」と招かれた長崎県対馬市の議会で、参考人として意見を述べました。そのNUMOが「そのうち、なんとかなるんじゃないの」と思っているとしたら、驚愕です。

やっぱりNUMOの役割は、トイレなきマンションと言われてきた原発のトイレ問題は解決に向かっていくから原発を再稼働させて利用しましょうと国民に思い込ませることなんだ。処分場を作ることではないんだ！

だから「そのうち、なんとかなるんじゃないの」

(末田)